

平成 30 年度 生薬学・天然物化学関連教科担当教員会議 議事録

日 時： 平成 30 年 9 月 15 日（土） 16 時 00 分～17 時 45 分

場 所： 安田女子大学 9 号館 4 階 9410 講義室（広島市安佐南区安東 6-13-1）

議 題：

（1） コアカリ漢方教育に対して生薬学が担うべきこと

話題提供者： 岐阜薬科大学 大山雅義先生

岐阜薬科大学天然系教育コースにおける講義構成の紹介の後、漢方薬の系統的分類や生薬の薬能を示す用語の統一化、並びに漢方薬の臨床応用を意識した生薬成分に関する講義の必要性などに関する話題提供があった。来年度から改訂コアカリに沿った講義が開始されることから、これまで漢方教育を担当してきた生薬学・天然物化学分野が今後どのような役割を担うべきかを考える機会となった。出席者から質問や発言もあり、活発な議論が行われた。

（2） 薬剤師を取り巻く議論と薬学教育への期待

話題提供者： 厚生労働省医薬・生活衛生局総務課 安川孝志先生

薬剤師・薬局に関する最近の状況が紹介された後、今後薬剤師に期待される職能として地域包括医療の中での薬（病院）-薬（薬局）連携や健康サポート機能などについて、また、薬学教育に期待することとして薬学部 6 年卒業時に必要とされる資質を挙げて、臨床現場での問題解決能力や研究能力の必要性などについて説明された。高齢者医療や健康サポート面では漢方製剤や生薬製剤の活用が考えられることから、その方面における生薬学・天然物化学分野の教育の役割についても言及された。出席者から多方面にわたる質問があったが、丁寧に答えていただき、充実した議論を行うことができた。

（3） その他

なし

終了後、植物園協会と合同の意見交換会を行った。

生薬学・天然物化学教科担当教員会議

委員長・世話人 小松 かつ子

追記

1) 平成 31 年度委員長：松田久司先生（京都薬科大学）

2) 平成 31 年度の開催場所：北里大学薬学部

（日本生薬学会第 66 回年会時、年会会長 小林義典先生）